

何歳になっても  
学ぶことができる、  
働きながら勉強ができる  
環境があることに感謝!!



### 宮坂 未沙子さん

3年次編入学 10月生

宮城県

年代：20歳代(取材時)

職業：福祉関連業界・事務職員

#### — 入学のきっかけは？

学生時代から現在の社会人に至るまで、様々な年齢・国籍の人と関わる機会が多く、時には友達や家族、仕事仲間に悩み事や相談を持ち掛けられることがありました。そこで、人とのコミュニケーションにおいて『傾聴力』の大切さを実感し、より専門的な知識、見識を広げ、多くの人に良き相談相手として『安心と幸せ』を届けたいと思い、入学を決意しました。

#### — 入学後に変えたことは？

入学当初は、何から学習していくべきか分からず、学習を進めていかなければならないと焦りと葛藤した結果、数か月は学習の手引きすらも開けられずにいました。通信では、何の科目から始めるか、レポートはいつまでに出さなければいけないか、実習はいつ行うか、全て『自分次第』であり、私自身、ある意味自由であることが入学後の苦勞となりました。

#### — 学習を工夫して乗り越えたことは？

卒業または、国家試験を第一のゴールとして設定し、レポート提出やスクーリング受講はいつまでに完了していないといけないのか、明確にすることからスタートしました。この日までに提出しないと今年度の実習は実施できない、など重要事項は必ず把握し、分からないことがあれば通信の事務職員の方が親身になって教えてくださいました。逆算思考による目標設定をする



ことで、目標との距離感が掴みやすく、達成感にも繋がりました。

#### — 入学してよかったと感じていることは？

先生方のスクーリング授業や演習等でのグループワークがとても有意義な時間であり、入学してよかったと感じています。社会福祉士としての知識や技術を学びたいと思ったら、何歳になっても学ぶことができる、働きながら勉強ができる環境があることにとても感謝しております。

#### — 会場スクーリングを受講しての感想は？

会場スクーリングでは、演習や実習指導の講義以外は初対面の人がほとんどでしたので、毎回緊張しつつも、『友達できるかな?』とワクワクしていました。自己紹介をしたり、グループワークをしたりする機会が多々あるので、普段ひとりで学習している分、お互いの進捗を確かめ合いながら自分自身のモチベーションを高めていました。

#### — 実習を通しての感想は？

実習期間中は、毎日の実習記録に苦勞しました。その日の実習記録はその日に記録しなければならないため、気づいたら深夜だったこともあります。その分の達成感を得ることができました。また、これまで学習してきた知識や技術を実際の福祉現場にて、実践として身につけることができました。

#### — 入学してから今までで印象に残っていることは？

実習期間中の帰校指導です。実習期間中は、体力的にも精神的にも大変でしたが、帰校指導では同じ実習中の仲間と進捗状況や実習の悩みなどを相談し合いました。『今必死に頑張っているのは自分だけじゃない』と思えるようになり、残りの実習を乗り越えることができました。

## 上田 愛さん

3年次編入学 4月生



埼玉県

年代：30歳代(取材時) 卒業：2023年3月

職業：急性期病院・社会福祉士

### — 入学の動機、入学前と卒業後の意識の変化、今後の目標などについてお聞かせください。

入学前は、病院・施設の事務職として勤務していました。患者・利用者・家族からのヘルプを耳にしても、直接援助することができずもどかしさを覚えました。そのような時、社会福祉士が活躍する姿を見て、私も社会福祉士として働きたいという思いが芽生えました。その思いを叶えるため卒業校であり、働きながら資格取得が目指せる通信教育部への入学を決めました。

### — 在学中の学びで印象に残ったことや、苦労したエピソードをお聞かせください。

感染症の影響で先生や学生と直接会う機会がほとんどなかったため、様々な思いを共有することができずにこれでいいのだろうかと自問自答を繰り返す日々でした。2年間で卒業する！と心に決めていたこともあり、通学と違い自分自身で勉強を進めていかな

れなければならないことにプレッシャーを感じることもありました。

### — 本学での学びが現在のお仕事や生活場面にどのような影響があるか、活かされているか、今後の目標などについてお聞かせください。

通信教育部の皆様、実習先の皆様、一緒に学んだ学生の皆様、職場の職員、家族など本当に多くの方に支えられていることを実感しました。今だけでなく、これまでもこれからもたくさんの方に支えられていくのだと思います。そして社会福祉士となった今、支えられるだけでなく支える立場として仕事に臨むことができます。これまでの学びが業務に活かされているとわかるとあの時の苦労が嘘のように消えていきます。社会福祉士としての成長のため自己研鑽の日々が続きますが、学生の時の志を忘れず、目指すべき社会福祉士像へ近づけるよう知識・人間力を高めていきたいと思っています。

### 卒業年度の学習状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
レポート												
スクーリング												
実習												
国家試験勉強期間												

### — 在学中の学びで印象に残ったことや、苦労したエピソードをお聞かせください。

「福祉」を勉強するとは具体的にどういうことなのか全くイメージがつかみませんでした。実際に勉強してみると心理学や保健学、法律や制度、社会資源など非常に多くのことを勉強しなければならないことに驚いたのが印象に残っています。介護のアルバイト(週5日勤務日勤、夜勤あり)もしていたので、レポートを溜め込んでしまったり、スクーリングを受ける時間がなかったりと最初は予定の調整にとっても悩みました。しかし、スキマ時間を見つけて課題やレポートに取り組んだり、予め整理して片付けるようにしたことで、忙しくはありましたが、ある程度効率よく学習を進めることが出来ました。

### 卒業年度の学習状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
レポート												
スクーリング												
実習												
国家試験勉強期間												



## 馬場 大河さん

3年次編入学 10月生

福島県

年代：20歳代(取材時) 卒業：2023年3月

職業：精神科病院・医療ソーシャルワーカー

### — 入学の動機、入学前と卒業後の意識の変化、今後の目標などについてお聞かせください。

入学前、私は全く別の業界でエンジニア兼営業職として働いていました。そこでは業務量もあってか心の体調を崩す人がおり、私自身も崩れかけている時期がありました。そうした経験からもっと人に寄り添える仕事がしたいと考えた時、恩師から精神保健福祉士という資格があることを教えてもらい、東北福祉大学の通信教育課程への入学を決めました。今後は医療だけでなく地域での生活をサポートしていけるソーシャルワーカーを目指したいと思っています。